

平成 25 年度 越美山地緑の回廊モニタリング調査【概要版】

位置図



越美山地緑の回廊



冠山国有林

越美山地緑の回廊について

近畿中国森林管理局と中部森林管理局では、平成16年3月に野生動植物の生息・生育地の拡大と相互交流を促すことを目的に7つの保護林を連結する「越美山地緑の回廊」を設定しました。(平成17年3月拡張)

この緑の回廊は岐阜、福井、滋賀の3県にまたがり、延長約66km、面積27,198ha(保護林含む)です。

この地域には、国内希少野生動植物種のヤシャゲンゴロウや日本海側特有のブナ林等が見られることから、それら野生動植物の保全・保護の取組や、必要な場所では生活環境に配慮した森林づくりを行い、人々との共生をめざしています。



小沢国有林

モニタリング調査

緑の回廊内の環境の状況を把握するために、「国有林野における緑の回廊のモニタリング調査マニュアル」(平成15年1月)に準拠し、平成17年度からモニタリング調査を実施しています。

緑の回廊内に継続的に調査を行う「調査プロット」を設定し、各種の環境調査を行っています。平成25年度は、林床の植生調査や、ブナの種子生産量調査、動物の生息調査などを行いました。

植生調査



和佐谷国有林での調査状況



間伐地に成立している下層植生

各調査プロットにおいて、森林の下層植生の状況を把握するために、草本層の植生調査(コドラート調査)を実施しました。

調査結果を経年の蓄積しているデータと比較した結果、植生環境は安定していると考えられました。平成24年度に間伐を実施した温見国有林では、草本層の優占度が増加していました。

種子生産量調査

ブナクラス(ブナ林)に設置した調査プロット3箇所において、ブナの種子生産量を把握するために、モニタリング調査対象の樹木にナイロンネット製の種子トラップを設置し、種子生産量を調査しました(7~11月)。調査の結果、平成25年度のブナの堅果類は不作から並作と判断されました。



採集したブナの種子と殻斗



種子トラップの設置状況

野生動物調査

各調査プロットに赤外線センサーによる自動撮影カメラを設置し、緑の回廊に生息する動物の調査を行いました(6~11月)。平成25年度の調査では11科14種の哺乳類を撮影し、痕跡調査では糞や足跡など、11科14種の哺乳類の生活痕跡を確認しました。自動撮影調査では、イノシシの撮影回数がこれまでの調査に比べて増加していました。鳥類調査では24科45種を確認しました。



センサーカメラ



ニホンジカの糞(痕跡)



イノシシ



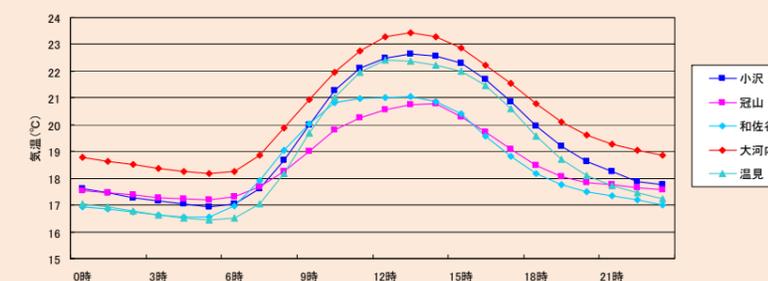
ツキノワグマ



ニホンカモシカ

生息環境調査

各プロットに気温・湿度を自動的に計測するデータロガーを設置し、気温・湿度の連続測定を行いました(7~10月)。測定結果を整理し、調査プロットにおける気温・湿度の特性を把握しました(右図:調査プロットにおける気温の日周変化)。



関係機関との連携

関係行政機関、試験研究機関等とモニタリング調査結果等の情報を共有し、関係者が連携しながら各種取組を進めていくこととしています。

<越美山地緑の回廊についてのお問い合わせは> 近畿中国森林管理局 (代表電話) 050-3160-6700